



# 災害時における自治体への 応援・支援について

——平成18年7月豪雨の取り組み事例——

国土交通省中部地方整備局企画部

かわにし みつてる

防災課長 川西 光照



## 1. はじめに



国土交通省は、昨年6月27日の国土交通省防災会議（会長：国土交通大臣）において、災害で被災した自治体等への応援・支援をより積極的に推進することとし、全国の自治体等に広くお知らせしました（<http://www.mlit.go.jp/bosai/disaster/shien/top.htm>）。

これは、平成16年度に集中豪雨や台風の度重なる上陸、新潟県中越地震、福岡県西方沖を震源とする地震等により全国各地で甚大な被害が発生し、被災地における被害拡大の防止や早期復旧・復興のために、適時・適切で効果的な応援・支援を総合的に展開することがきわめて有効かつ重要とのことから行われたものです。

中部地方整備局管内においても、東海豪雨（H12年9月）のときには、被害地整として近畿・北陸の両地整から応援をいただいた事例もある一方、新潟・福島豪雨（H16年7月）、兵庫県豊岡市円山川決壊時（H16年10月）新潟県中越地震（H16年10月）には、当地整から応援に駆けつけた実績もあり、これまでも大規模災害時においては地整間で連絡を取り合い支援活動を実施してきました。

また、中部地方整備局管内の自治体に対して

も、これまで以下のように支援を行ってきました。

排水ポンプ車の支援：市街地の浸水等に伴う内水排除

照明車の支援：地滑り等の監視、昼夜復旧作業の現地照明

衛星通信車の支援：地滑り等の監視状況や災害復旧作業状況の映像配信

散水車（給水）の支援：給水活動に散水車を活用

無人化施工機の支援：地滑り等に伴う、危険箇所における掘削作業

## 地方自治体



相談窓口の集約

各事務所

## 地域総合支援室



これまでの相談窓口

- ・地域づくりに関する相談
- ・河川、道路、港湾行政に関する相談
- ・技術開発に関する相談
- ・公共建築に関する相談
- ・災害情報普及に関する支援

拡充する機能

- ・防災に関する支援
- ・災害時の支援
- ・発注に関する技術的支援

図 1 施策のイメージ図

対策本部車の支援：災害現場で会議所，仮眠所として使える車両

ヘリコプターの支援：ヘリコプターによる現地調査・映像配信

被災調査支援：災害復旧技術専門家による被災調査支援

さらに昨年7月，管内39の各事務所に「地域総合支援室」を設置し従来の地域づくり，河川，道路，港湾行政全般に対する相談，技術開発に関する相談等に加え，防災に関する支援も行うこととし，各事務所の副所長を窓口とし，支援窓口の集約化と相談のしやすさの向上を図ることとしました。

このことにより関係自治体の方々により有効に活用していただくための体制となりました。

## 2. 平成18年7月豪雨時の支援状況

今回，平成18年7月豪雨で，長野県では15日の降り始めからの総雨量（約500mm）が過去20年間で最大の記録となり，岡谷市では土石流により民家が押し流され人命が奪われる事態となったほか，直轄管理する天竜川の堤防が決壊したり，諏

訪湖の水位が上昇し避難勧告や指示が出されるなどしました。

また，道路・鉄道も土砂崩落等に伴い交通遮断され，災害支援の関係車両も現地に着けない事態も発生しました。

特に，諏訪湖流域に降った雨は，市街地一帯に浸水被害を与えることとなり，国土交通省に対し，浸水被害軽減の支援要請がありました。

当時，南信地域は天竜川支川で内水被害が発生しており，飯田市（排水ポンプ車2台），伊那市（排水ポンプ車1台），喬木村（排水ポンプ車1台）からそれぞれ支援要請があり，愛知県内の事務所から内水排除の支援を行っているまただ中にありました。また上伊那郡箕輪町地内の天竜川では堤防が決壊し，流水の勢いにより決壊区間が拡大していく中，その復旧対応に追われていました。

諏訪市への支援は，中部地方整備局から排水ポンプ車3台，関東地方整備局から排水ポンプ車3台計6台により，19日の深夜から翌日の夕方まで排水作業を行い，浸水被害も一段落しました。

その後も，一部で降り止まぬ雨に対し，諏訪市の災害対策本部とも連絡を取り合いながら，場所を移動したり車両を限定して22日の明け方まで対

国土交通省は梅雨前線による被害の対応について、地元自治体の要請をうけ、平成18年7月19日長野県諏訪市に排水ポンプ車6台を現地に派遣し、排水作業を実施しました。

### <派遣した災害対策用機械>

- ・関東地方整備局 3台（13m<sup>3</sup>/min 1台 30m<sup>3</sup>/min 1台 60m<sup>3</sup>/min 1台）
- ・中部地方整備局 3台（30m<sup>3</sup>/min 2台 40m<sup>3</sup>/min 1台）

湖岸地区の排水作業は終了し、7月20日21:00までに関東地方整備局派遣の2台（60m<sup>3</sup>/min、30m<sup>3</sup>/min各1台）中部地方整備局派遣の2台（30m<sup>3</sup>/min×2台）は撤収しました

なお、残りの排水ポンプ車（関東地方整備局13m<sup>3</sup>/min1台、中部地方整備局40m<sup>3</sup>/min1台）のうち40m<sup>3</sup>/minのポンプ車については7月21日午前中に湖南地区の排水作業を実施しました。（関東地方整備局派遣の13m<sup>3</sup>/minポンプ車については湖岸地区にて待機中です）



7/20 昼頃の冠水状況（諏訪市湖岸通り2丁目付近）



7/20 夕方（諏訪市湖岸通り2丁目付近）

図 2 排水ポンプ車の派遣について

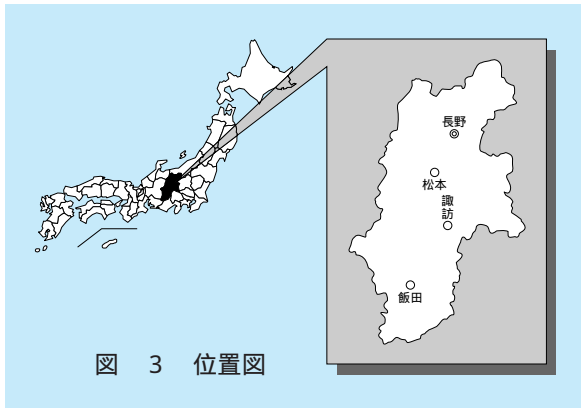


図 3 位置図

### 3. 頻発する災害に備えて

近年、異常気象に伴う集中豪雨が各所で頻発し、平成18年7月豪雨以降も、8月に九州南部地方に大雨を降らせた台風10号、9月に長崎県に上陸した台風13号と、今年も各所で災害に伴う被害が頻発し、住民の生命・財産が脅かされています。

応じました。

私どもの活動は、その後関係市町からお礼の言葉をいただき、地域の方々に喜ばれていることを再確認しました。

国土交通省としては、今後も地方自治体との連絡を密にし、迅速な対応と被害の拡大防止に向け、さらに体制を整えていく予定です。

図 4 長野県諏訪市における地域支援状況 (7/20記者発表資料)



諏訪市街の内水排除で排水ポンプ車が活躍  
(中部地整 3台、関東地整 3台)



直轄国道の復旧にも  
照明車が活躍

H18.7.17~7.19 照明車 × 1台

天竜川支流の2市1村から  
排水ポンプ車の派遣要請

- 飯田市 7/19 排水ポンプ車 2台
- 伊那市 7/19 排水ポンプ車 1台
- 喬木村 7/19 排水ポンプ車 1台

天竜川決壊現場で昼夜連続の復旧作業  
照明車・衛星通信車・対策本部車が活躍



図 5 災害対策用車両の広域支援活動状況 (H18.7月豪雨)